

熱海のヒラメ中間育成と放流

大熱海漁協は、5月19日に熱海市曾我浦と伊豆山の地先でヒラメ稚魚の放流を行いました。放流したヒラメ稚魚は、御前崎市の静岡県温水利用研究センターで生産された全長約30mmの種苗10,000尾を、4月28日から漁協近くの陸上水槽で中間育成したもので、放流時の平均全長は56mm、放流尾数は曾我浦と伊豆山を合わせて9,000尾でした。例年、曾我浦の放流は、熱海市内の小学生が漁船に乗船して行い、当场からはヒラメの生態や放流の目的について説明していますが、今年は新型コロナウイルス流行の影響で、漁業者のみで放流が行われました。また、大熱海漁協は、熱海市上多賀でもヒラメ稚魚5,000尾を中間育成し、6月4日に平均全長83mmに成長した3,000尾を放流しました。

いとう漁協網代支所においても、5月21日にヒラメ稚魚の放流を行いました。種苗15,000尾の中間育成は漁協の荷上場に設置された陸上水槽で行われ、放流時の平均体長は65mm、放流尾数は11,000尾でした。



中間育成開始時のヒラメ種苗



陸上水槽（網代）



放流作業（網代）

(鈴木聡志)